

北海道新幹線開業の事前調査

2012年10月3日（水）、14日（木）、15日（金）

メンバー：真鍋 翼、工藤 敬覚、大瀬良 隆幸、土肥 賢吉、渡辺 信二、黒瀬 拓也

担当教員：赤羽 幸雄

1. 調査の目的・概要

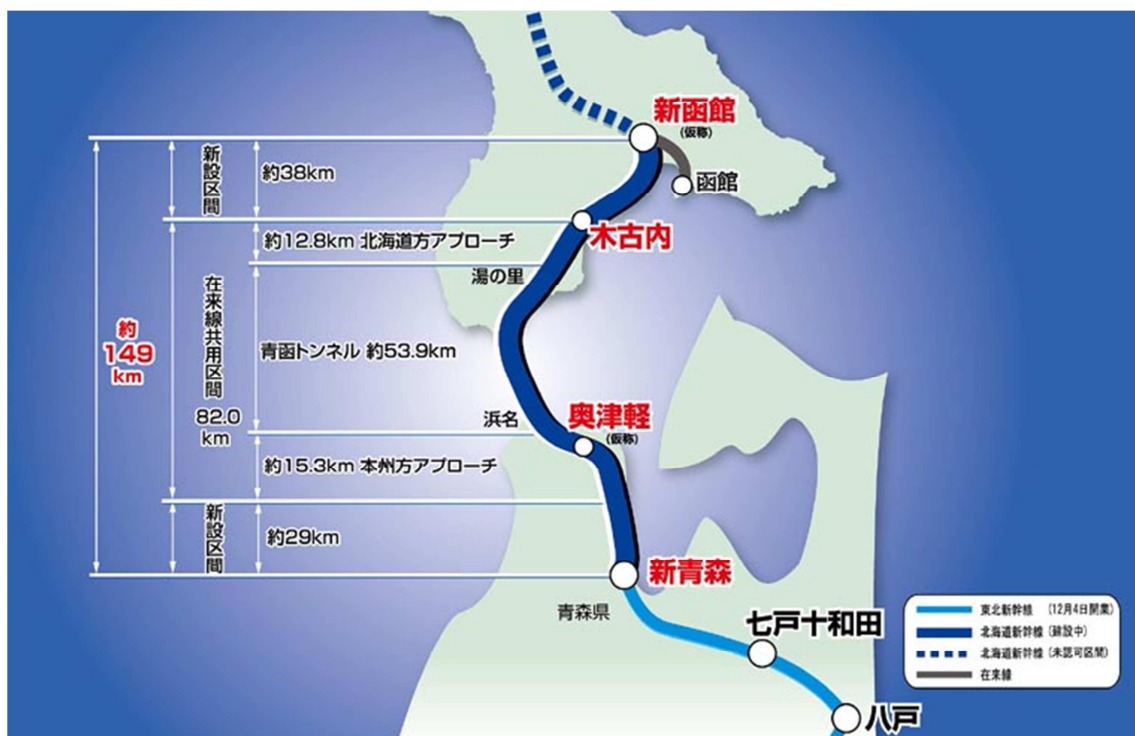
2015年度の北海道新幹線の開業に向けて2013年度からは、試験運転が始まることが決まり、新駅（仮称：新函館、木古内）開業をもたらす経済効果に期待が高まっている。

そこで、地元の自治体や経済団体は、新駅開業をどのように受け止めているのか、観光や食などの地域産業活性化のためにどのような準備・対策をしているのかを現地調査した。

(1) 北海道新幹線ルート図

2015年度開業予定 新函館－東京、最短4時間

2035年度札幌延伸 新函館－札幌、最短で50分、札幌から東京まで4時間40分



出所：北海道新幹線 2015年新函館開業ウェブサイト

(2) 北海道新幹線の開業がもたらすもの

函館から東京まで5時間29分だったのが、新幹線開業により約4時間になる。

→ およそ1時間30分の時間短縮効果が見込まれる

現在の課題

青函トンネル部分が貨物列車と線路を共用するため、20分のロスが出る可能性があるという。その対策として、国土交通省内部でワーキンググループを結成して安全性と高速性を確保しようと検討している。

(3) 時間短縮がもたらすもの

北海道新幹線が開業する大幅な時間短縮効果が見込まれる → それは人の行き来が増えるということである。しかしながら、旅客が増えたとしても魅力ある街でなければ旅客は足を留めていてはくれない。

だからこそ

地域の行政・企業・市民が一丸となって意見を出し合って街づくりをすすめていく必要がある。

2. 函館市、函館商工会議所

日時：10月3日（水）14：00～16：00

場所：函館商工会議所 会議室

面談者：函館市企画部 計画推進室 政策推進課／函館商工会議所 地域振興課



（1）函館の街をつくる3つの戦略

① 観光振興

観光客のニーズを把握し、函館がもつ「地域資源の有効利用」や「新たな観光資源づくり」を進める。

② 産業振興

地域資源の開発、地場製品の販路拡大に取り組む。

また、未来を担う人材や企業の育成・誘致。就労機会拡充のための雇用創出を目指し、地域産業の活性化に取り組む。

③ 交通アクセス

在来線鉄道・バス・タクシーなどとの乗り継ぎなど利便の向上をする。

新幹線利用者の円滑な交通アクセスの充実に努める。

しかし、上記の施策は決して新幹線開業のためだけに行っていることではない。

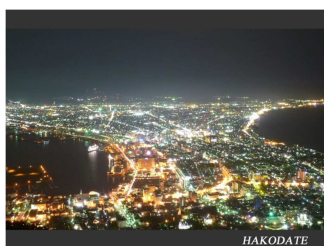
あくまでも新幹線開通はチャンスでしかない。

最終的には、若者がこの地域で暮らしていけるような地域づくりをしていく必要がある。

だから、新幹線開業がゴールではなく、開業した後にどれだけその新幹線という利便性を高める地域づくりをしていくことができるかが重要になってくるという。

(2) すでに取り組んでいるアクションプラン

- ・函館スペシャルチケットを販売
- ・函館市内の街頭啓発看板の掛け替え
- ・新幹線開業を積極的に告知すると共に市民のみならず観光客にも新幹線開業を身近に感じてもらう狙い
- ・北関東・東北でのプロモーション（イベント）を実施



(3) Hakodate City Wi-Fi

函館市は、路面電車車両内での Wi-Fi (Wi2 300) サービス提供を開始した。北海道新幹線新函館開業対策推進機構およびワイヤ・アンド・ワイヤレス社と共同で、「Hakodate City Wi-Fi」の名称で路面電車のほか主要観光施設等にもサービスを展開している。

路面電車全車両への Wi-Fi サービス導入は全国初だという。

交通機関など	函館市電車両内・停留所 / 空港連絡バス / 函館駅前 バス案内待合所 / 津軽海峡フェリーターミナル
観光施設など	函館山ロープウェイ山麓駅 / 五稜郭タワーアトリウム / 金森赤レンガ倉庫 / 旧イギリス領事館 / 元町観光案内所 / 函館駅観光案内所 / 函館市地域交流まちづくりセンター / 函館朝市どんぶり横丁市場 / 函館駅二商業協同組合 / 渡島蔬菜農業協同組合



(4) これから取り組んでいくべきこと

函館で行われている新幹線開通に向けた施策の数々

→ しかしながら、札幌近などでは函館で行われていることに対してリアクションがない。

これから行っていかなければいけないこと

札幌の政財界に函館がどのようなことをやっているのかを知ってもらうために情報を発信していくこと。

※何故ならば、新幹線開通は道南だけの問題ではない。

北海道全体として問題意識をもつ必要があるからだ

3. 北斗市、北斗市商工会

日時：10月4日（木）11：00～12：30

場所：北斗市商工会 会議室

面談者：北斗市総務部 企画財政課、観光課／北斗市商工会、北斗市観光協会



（1）北斗市の取り組み

① 新駅周辺地区の整備

新函館駅（仮称）の南側 13.5ha を土地区画整理事業で都市基盤整備する。
併せて、新駅付帯施設や立体駐車場などの公共施設を建設する。

② 駅前の土地利用促進

宅地の土地利用を促進し、都市機能を創出する。

3次産業の企業誘致（ホテル）。

新駅周辺地区に適用される市独自の立地助成条例により、民間投資を誘発する。

③ 観光振興施策の重点推進

平成 23 年度 北斗市観光振興プランを策定した。

平成 24 年度 観光課を新設し、重点的に推進する。

北斗市も観光資源の磨き上げなどを行い、道南の魅力アップに貢献する。

「桜回廊」の展開

道内最大級といわれる「法亀寺のしだれ桜」、周辺の桜並木をライトアップ。

平成 23 年 しだれ桜のライトアップ試験実施

平成 24 年 しだれ桜に加え、周辺市道の桜並木のライトアップ。

平成 25 年 継続実施。



(2) 開業効果活用アクションプランの策定・推進「H24 - H28」

- ① 北斗市の既定の計画・方針に基づく、事業実施の調整を図り、限られた時間・財源で計画的かつ集中的に行うための、いわゆる「工程表」を策定した。
- ② 上記は北斗市の「商品づくり」。
併せて、開業前後イベントやPR事業の「宣伝」工程表も策定し、一体的に推進する。

※北斗市独自開業PRロゴ&キャッチフレーズ(7/18決定)

※「宣伝」などの事業は広域連携・調整が重要。



4. 木古内町、木古内商工会

日時：10月4日（木）15：00～16：30

場所：木古内町役場 会議室

面談者：木古内町 新幹線振興室／木古内商工会、木古内観光協会



（1）北海道新幹線木古内駅の利活用促進

- ① 「新幹線木古内駅開業」を前面に出したインパクトのある新たなPR素材の開発
→ ポスターやのぼり。今後、啓発グッズも登場する。
- ② 町内関係団体にも各種印刷物等での使用を要請
→ 新キャラ「キーク」の開発。キークを利用しマスコミの関心を得る。
- ③ 町民参加型PR
→ 木古内高校最後の卒業生による駅デザインの選考。
- ④ 町内飲食業者とのコラボによる道外物産展でのPR
→ 東武百貨店「秋の大北海道展」に参加。



(2) 近隣町と連携した広域観光の展開

- ① 「新幹線木古内駅利活用推進協議会」を通じた活動の展開
→ モニターツアー等

- ② 「地域おこし協力隊」制度を活用した人材育成
平成 24 年 7 月 9 町広域観光の将来を担う期待のルーキーとして、「はやぶさ 03 (スリー)」の愛称でデビュー。

まずは各町のイベント参加などで関係を強化。
フェイスブックを活用し、PR をしている。



- ③ 広域観光の拠点施設「観光交流センター (仮称)」の建設
平成 27 年 4 月 新幹線開業に先立ち、木古内駅南口駅前広場にオープン予定。
9 町の旬な情報発信や物産を販売するとともに、飲食、レンタカー、バス待合等の機能を備えた複合的な施設とする計画している。

(3) 一次産業の活性化を核とした木古内観光の魅力向上

- ① 木古内特産「はこだて和牛」のブランド化
→ 「あか牛」を生かしたメニュー開発。



- ② 木古内らしい魅力のあるお土産品の開発
→ 体験観光の推進。
町民総出によるホスピタリティが好評で
利用者数が H20 (19 名) → H24 (1,579 名) と、
約 83 倍に急増。約 25 の体験メニューがある。



- ③ 道南杉を生かした魅力ある商店街づくり
→ 駅前通り拡幅工事 (道事業) に合わせて、商店街を道南杉の「ショールーム」化。